

## 第13回 箕面市地域公共交通活性化協議会 会議録

### 1. 日 時

平成24年1月13日(金) 午前10時00分～午前11時30分

### 2. 場 所

箕面市役所 委員会室

### 3. 出席者

#### (会 長)

・箕面市副市長 伊藤哲夫

#### (副会長)

・箕面市地域創造部専任理事 広瀬幸平

・大阪大学大学院工学研究科教授 新田保次

#### (監 事)

・箕面商工会議所専務理事 松出末生

#### (委 員)

・大阪大学大学院工学研究科准教授 松村暢彦

・大阪大学大学院工学研究科助教 猪井博登

・阪急電鉄株式会社都市交通事業本部都市交通計画部長 上村正美

(代理出席) 都市交通計画部部長 庄 健介

・阪急バス株式会社取締役自動車事業部長 西山 哲

(代理出席) 自動車事業部営業計画科 瀧川文章

・阪急バス労働組合副執行委員長 勝 正雄

・みのおの交通を考える会 永田よう子

・粟生第二住宅自治会副会長 松本暁美

・分科会の副分科会長 井上 整

・大阪船場繊維卸商団地協同組合専務理事 工藤寛士

・株式会社ジェット管理本部長 横山吉広

(代理出席) 人事部リーダー 中川正之

・東急不動産 SC マネジメント株式会社箕面マーケットパークイワ総支配人 滝川隆文

・株式会社ビバーレコードビバーワールド 箕面船場統括マネージャー 米津秀春

・国土交通省近畿運輸局大阪運輸支局首席運輸企画専門官(総務企画) 高橋眞一

・国土交通省近畿運輸局大阪運輸支局首席運輸企画専門官(輸送) 井上景之

・大阪府都市整備部交通道路室参事 藪内生死

・国土交通省近畿地方整備局大阪国道事務所管理第二課長 河合良治

・大阪府池田土木事務所維持管理課長 山本公一

・箕面市みどりまちづくり部長 山田 学

・大阪府箕面警察署交通課長 秋田潤一

・箕面市健康福祉部長 小野啓輔

・箕面市地域創造部長 小泉正己

- ・国土交通省近畿運輸局企画観光部交通企画課長 浪越祐介（オブザーバー）  
（代理出席）交通企画課専門官 土田和史

（欠席）

- ・社団法人大阪タクシー協会常務理事 井田信雄
- ・街づくり支援センターみのお 清田栄紀
- ・自転車道ネットワーク公募市民 松木 亮
- ・学校法人大阪青山学園事務部経理課長 福田貴夫
- ・有限会社箕面自動車教習所取締役総務部長 桐村敏昭
- ・箕面市市長政策室長 具田利男
- ・箕面市教育委員会事務局教育次長 中井勝次
- ・国土交通省近畿運輸局自動車交通部旅客第一課長 阪部光雄（オブザーバー）

以上、委員32名のうち25名出席、オブザーバー1名欠席。

#### 4. 議題

- （1）規約等の改正について
- （2）運行状況について
- （3）運行見直しによる利用者数、収支率の変化について
- （4）各種調査について
- （5）利用促進策について
- （6）分科会での検討状況について
- （7）今後の進め方について
- （8）その他

#### 5. 議事要旨

- （1）規約等の改正について

【原案どおり承認する。】

【意見・質疑なし。】

- （2）運行状況について

【報告どおり承認する。】

【意見・質疑なし。】

- （3）運行見直しによる利用者数、収支率の変化について

【報告どおり承認する。】

【意見・質疑応答は次のとおり。】

利用者数が減っているのに、収支率が向上しているのはなぜか。

当初の運行の収支率は、最終、年間でかかった経費において算出しており、今回の抜本的な見直しについては、最終精算額ではない。回数券の増刷など、経費の増額によって最終的に収支率の低下の可能性はある。

抜本の見直しによって大幅にルート等が変わったが、利用者数が変わらない、または減っている現状はなぜか。

現時点では、12月に実施したバス乗降調査の詳細な結果が出ていない。調査結果が出た段階で、詳細に分析し、調査結果をとりまとめ、協議会に報告する。専門部会では、大幅な変更を行った場合、大きな変動があるのが一般的ではあるが、今回、抜本の見直しを行ったにも関わらず変化が少ないのは、箕面市の利用者が、現状で定着化、固定化しているのが原因という可能性があるという意見も出ている。今後は、普段利用していない方へのPR、利用促進などを行っていく予定である。

当初運行の運行開始直後の方が、利用者数が多いということはどういうことか。現状が減っているということではないのか。

一般的に、最初に需要が多く利用者が増えるのはありうることである。ただ、現状の利用者数についての変動の原因は現段階で不明である。今後、各種調査の結果を分析し、原因を調べる予定である。

利用者数が減ったにも関わらず収支率が上がった原因として、子供の利用が減ったとは考えられないか。

バス乗降調査の詳細な結果が出ておらず、現段階で、年代別の増減は把握できていない。収支率について、4月と7月が向上しているが、その要因は何か。

回数券購入などでプルバックカー付ボールペンをプレゼントするキャンペーンを行った。3月中旬から10回乗車や、7月については、最終期間を延長したことによるその駆け込み需要があったことが大きな要因と考えられる。

#### (4) 各種調査について

【報告どおり承認する。】

【意見・質疑なし。】

#### (5) 利用促進策について

【報告どおり承認する。】

【意見・質疑応答は次のとおり。】

商業者との連携は行っているのか。

平成22年度より実施している、ヴィソラとの連携(2000円以上の買物で帰りの乗車券プレゼント)は引き続き実施している。また、平成22年11月の「箕面100円商店街」では、商工会議所との連携(乗車証明書と引き換えで帰りの乗車券をプレゼント)を実施した。しかし、その他の商業者との連携はまだ実施できていない現状である。

お試し無料乗車券は何枚配布し、何枚利用されたのか。

現段階では、成人祭(1月9日開催)にて850枚配布しており、利用数はまだ把握できていない。阪急バスが利用枚数を計測する予定である。

今後は、子供健診や幼稚園などで配布予定である。

利用促進以外の収支改善として、広告料などの取り組みをしているのか。

現在まだ実施できていないが、検討し、収入に入れていきたいと考えている。

サラ金などの広告のはいったベンチについて、処理をおこなったのか。

また、ベンチの設置については、例えば、寄附物を設置することで設置費用をかけないことやまた、利用促進の一環として、滝ノ道ゆずるの絵を募集し、貼るといったようなことも考えられないか。

違法なベンチについては既に撤去完了している。

利用促進策の一つとして、現在実施している情報交換会とリンクさせて進めて行きたいと考えている。

## (6) 分科会での検討状況について

【原案どおり承認する。】

【意見・質疑応答は次のとおり。】

現状、平日には利用者が多く、今以上に利用者を増やすのはむずかしいのではないかと。そうすると、利用者の少ない土日に利用促進を行うべきと考えている案は良いと思うが、それ以外に、ハード面としてバス事業者や鉄道事業者と連携して土日だけ使える回数券などがあれば良いと思う。

収支率を向上するためには、観光客の導入などがある。ただ、それによって市民生活への影響も考慮しなければならないと思うが、そのあたりについてどのように考えているか。

今後、協議会の中でご理解いただきながら、専門部会、市民部会で議論していきたいと考えている。

箕面市では「温故知新」や「箕面逸品」などを実施しているのだから、そういったものと連携して、例えばそれらのチラシにバス停の位置や、バスの時刻を記載させるなど、いろんな情報などとリンクさせたものを作ってほしい。

バスの車内が寂しい。阪急バスのような広告をとるのもいいが、例えば箕面市内のケーキ屋さんに統一した広告を貼るなどしてはどうか。

地域のコミュニティバスとして、地域に関連した広告などを検討している。また、子供が乗ったときに楽しくなるようなバスになるように検討していきたいと考えている。

利用促進、PRの一環として、また、収支改善のため、オレンジゆずるバスの車両をチャーター便などで活用することは可能か。

可能かどうかについて、即答はできない。阪急バスと協議の上、可能かどうかについて検討を行う。

## (7) 今後の進め方について

【原案どおり承認する。】

【意見・質疑応答は次のとおり。】

オレンジゆずるバスの運行の前提は、Mバスの時の予算を超えないと考えていたが、違うのか。

市民意向によっては、予算の変更という考え方もあるが、単純に予算増額というのは、ほとんど利用者のない区間、時間もある現状では難しい。そのあたりも含めて、検討していく。

来年は実証運行最終年であり、本格運行をどうするのか、見直し基準について検討など行って

いく必要があるかもしれない。次回の協議会ではそのあたりの議論も行っていただきたい。

( 8 ) その他

【特になし。】

以上